



新潟地方気象台が発表した1か月予報（7月6日～8月5日）では、向こう1か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並の見込みです。

今後の気象情報や生育状況を確認したうえで、穂肥施用による後期栄養を確保し、収量・品質低下リスクを軽減しましょう。

稲作技術情報

～穂肥診断による穂肥施用の確実な実践！～

出穂期葉色（SPAD値）32の確保に向けて

○令和6年産コシヒカリ BL 出穂期予想 （7月5日現在 アグリルックより）

地域	田植日	出穂期予想	穂肥施用時期の目安	
			1回目時期 幼穂長0.5～1.0cm (出穂18日前後)	2回目時期 葉耳間長0cm (出穂10日前)
平坦地	5月10日	7月31日	7月13日	7月21日
	5月20日	8月4日	7月17日	7月25日
	5月30日	8月9日	7月22日	7月30日
高標高地 (400m程度)	5月15日	8月6日	7月19日	7月27日
	5月25日	8月10日	7月23日	7月31日
	6月5日	8月13日	7月26日	8月3日

※出穂期予想は、今後の気象条件等によって前後する場合があります。

○確実な2回目時期の穂肥施用！

2回目時期の穂肥は、玄米の充実度に大きく影響するため、確実な施用を行いましょう。

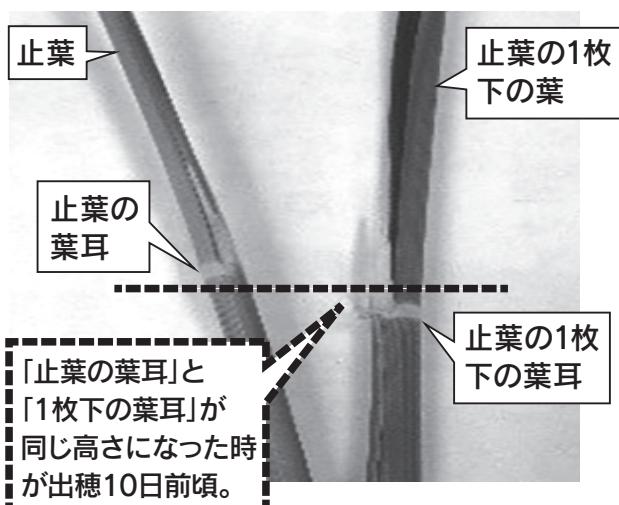
しかし、極端に葉色が濃い圃場においては、減肥や施用を控えるようにしましょう。

施肥量の目安は、「あぜみちNO.5の3ページ」をご確認ください。

また、2回目時期の穂肥が施用できないと判断した後に、出穂間際で退色が進んだ場合は3回目時期の穂肥を検討しましょう。

- ・出穂後の窒素施用は、玄米タンパク含有率の上昇が懸念されますので、普及センター・JA営農指導課までご相談ください。

～2回目穂肥時期～
出穂期10日前の稻（葉耳間長0cm）
※この時の幼穂長は8.0cm程度



○高温年における3回目穗肥の施用

令和5年産米は、過度の高温により従来の穗肥施用量では相対的に不足していました。気象条件に応じて3回目の穗肥施用を検討しましょう。

表1：高温が予想される場合の3回目穗肥めやす

3回目時期の使用肥料		判断時期と葉色の目安	施肥時期と施肥量
化学肥料を施用		出穂期3日前の葉色(SPAD値)が31以下のとき	出穂期3日前に窒素成分で1kg/10aを上限に施用
有機50%肥料を施用		出穂期6日前の葉色(SPAD値)が33以下のとき	出穂期3日前に窒素成分で1kg/10aを目安に施用
有機100%肥料を施用	標準的な圃場	出穂期6日前の葉色(SPAD値)が33以下のとき	出穂期6~3日前に窒素成分で1kg/10aを目安に施用
	低地力の圃場	幼穂形成期の葉色(SPAD値)が31未満のとき	出穂期6~3日前に窒素成分で2kg/10aを目安に施用

○病害防除について

北陸地方3か月予報(7月~9月)では平均気温・降水量とともに、並から高い予報となっており、病害虫の発生が懸念されるため、事前に薬剤防除を行い予防に努めましょう。

表2：病害防除薬剤一覧

病名	薬剤名		散布量(10a当り)	散布適期
いもち病	ブラシン	粉剤DL	3~4kg	葉いもち：発病初期 穂いもち：出穂期
		フロアブル	1,000倍液 60~150ℓ	
稻こうじ病	Zボルドー粉剤DL		3~4kg	出穂20日前~10日前まで
紋枯病	バリダシン粉剤DL		3~4kg	出穂10日前頃~出穂直前
	モンガリット粒剤		3~4kg	出穂21~14日前頃

※ボルドー剤は、「出穂10日前以降」または「朝露、夜露が付着している時」は薬害リスクがあるため散布を控えましょう。

○本田内除草剤の使用時期について

水稻中後期除草剤には、収穫前使用時期が設定されています。使用の際は、収穫前使用時期を過ぎないよう十分注意しましょう。

除草剤名	使用時期
クリンチャーEW・ワイドアタックSC	収穫30日前まで
アレイルSC・ロイヤント乳剤	収穫45日前まで
クリンチャーバスME・トドメMF(粒剤、乳剤)・バサグラン液剤・トドメバスMF液剤	収穫50日前まで
バサグラン粒剤・ゲパード・ウィードコア	収穫60日前まで

農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し、登録内容を厳守してください。

次号「あぜみち」予告

- 稲作…登熟期間の水田管理と本田内防除について
- 園芸…秋野菜の作り方について

ご不明な点がございましたら、JA みなみ魚沼営農指導課までお問い合わせください。

◎アグリセンター大和 TEL777-3786 ◎アグリセンター六日町 TEL773-6121

◎しおざわ基幹センター TEL782-1171